

1次独立と1次従属 — 3つの空間ベクトル

零ベクトルでない3つのベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ が1次従属

$\iff c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 + c_3\mathbf{a}_3 = \mathbf{0}$ を満たす実数 c_1, c_2, c_3 (ただし, すべて0でない) が存在する. (仮に $c_3 \neq 0$ とすると...)

$$\iff \mathbf{a}_3 = b_1\mathbf{a}_1 + b_2\mathbf{a}_2$$

\iff ベクトル \mathbf{a}_3 はベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2$ が生成する平面上にのっている.

零ベクトルでない3つのベクトル $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$ が1次独立

\iff どのベクトルも他の2つのベクトルが生成する平面にはのらない.

例題 (判定法)

例題 次の3つのベクトルが1次独立か1次従属か判定しなさい.

$$\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} -3 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -2 \end{pmatrix}$$

方針 $c_1\mathbf{a}_1 + c_2\mathbf{a}_2 + c_3\mathbf{a}_3 = \mathbf{0}$ を満たす実数 c_1, c_2, c_3 を求める.

\iff 方程式 $x\mathbf{a}_1 + y\mathbf{a}_2 + z\mathbf{a}_3 = \mathbf{0}$ の解を求める.

$$\begin{aligned} x\mathbf{a}_1 + y\mathbf{a}_2 + z\mathbf{a}_3 &= x \begin{pmatrix} 2 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix} + y \begin{pmatrix} -3 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix} + z \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -2 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} 2x - 3y + z \\ 2x - 2z \\ x + y - 2z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

例題 (判定法)

⇔ 次の方程式の解は？

$$\begin{pmatrix} 2 & -3 & 1 \\ 2 & 0 & -2 \\ 1 & 1 & -2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \quad (A\mathbf{x} = \mathbf{0})$$

- 1次独立

⇔ 自明な解 ($x = y = z = 0$) しか持たない.

⇔ 行列 A の階数が 3 (= ベクトルの数, 行列の列の数).

⇔ 行列 A の行列式が 0 でない.

⇔ 行列 A は正則行列, つまり A の逆行列が存在する.

- 1次従属

⇔ 非自明な解をもつ ⇔ $\text{rank}A < 3$ ⇔ ……

例題 (判定法)

- 3 個以上の平面ベクトル達はいつも 1 次従属.
- 4 個以上の空間ベクトル達はいつも 1 次従属.
- \vdots

以上を参考にして, 問題 1.10 をやってみよ.

問題 1.10 の解

- (1) 1 次従属 (2) 1 次独立
(3) 1 次従属 (4) 1 次独立
(5) 1 次従属